

1620

第三卷 第七號

藏

廿四日

藏

聖德太子御製海船歌頌及蘇我氏御製此等

御書

其書字體係海船歌頌及蘇我氏御製此等
出好佳本手本及手本也

昭和九年三月

耳部子長

圖書印

開

藏

藏

圖書印

四月六日

庫理第二五号

藏

藏

藏

卷三

水野

此等之海情集

今版其意字海ノ恨事ニ様國ノ海軍は
去事ノ就テ生海軍強國ノ要也
冊甲乙ノ通ニ至シテ其ノ海情也

海軍

送

一七五〇號

四月七日

(外冊... 本年武... 海軍ノモノ目)





三月廿四日



軍機第三七號



三月廿四日



高段圖及子高子第二、第四師忠及左廣右備

限成第一、第二旅忠先傳長、通桂案

別紙、通、其、所、之、左、廣、右、備、初、令、之、各、各、各、各、各

乃、通、桂、案

三月十日

10、乃、師、忠、及、左、廣、右、備、限、成、第、一、旅、忠

先、傳、長、通、桂、案

空 頁 小目

別出通中其家了在法廷考至威由康最軍引於
官、訓令表承、昌、為、所、自、立、在、通、律、也

陸軍部 第九〇一號

三月十四日

早稲子、日、主、一、字、子、深、江、堂

威海衛台頭軍司令官の訓令

一 其の湾と使混成隊の旅忠ヲ編成セラレケル甘列表
 丙才四隊 (守備隊員) △守備隊員ヲ女軍歩兵
 各中隊ヲ才二年才二年共ヲ出教たむるに
 二 前項人員中准士官以上ノ人名ヲ撰定シ左ノ令
 課ヲ大本營ニ具申シ下出ノ司令官におテ轉
 おシ合シ支人名ヲ報告スルに但准士官以上ノ者
 トモモ如費時期ニ即チ辭令書到達セサレ場合
 支テハ右具トノ通假・後務ヲ令シ如費セシムルに
 其の湾と使支其才ニ隊隊長 少佐キ名

同 聯隊中隊長

大尉七名

同 聯隊大隊副官

中尉七名

同 聯隊附

中少尉十六名

同

特務曹長七名

三戦役、結果、依りて吾軍の善率、敵の善率

曹ニ善率ヨリ多キトキハ、吾軍善率ノ數ヲ増シ

下級ノ職ヲ執ラレムルモ妨ケナシ

四 佐官ノ乗馬ハ、牽引シ尉官ノ乗馬及隊馬ニ台

傍ニおテ總督府ヨリ支給セシム

五 下士兵等、被服糧食携行ノ數ハ、列表見地ヨリ

派遣スルモノ、同ニ他指合等ハ、應月セシム

六 下士と家ハ贈テ支給シテ村田少兵衛及同

実包七十疋(特約専長及他) 喇川長並喇川少

ハ外ハ喇川少推テシム

七 推テ常ニ為テ其甚湾ニテテ支給ス能ク推テ常

ノモハハ少他ニ送シ還送セシム

八 時ニ考ハ高級古糸ノ考リテ引率セシム威海港

ニおテ上船打物ニ至リ認めテ之旅團長ノ指

揮下ニ入ル

九 運送船ノ威海港ニ到ルニ時ハ送テ電報ス

十 派遣スル下士と家ハ兵籍(下士ハ考科表セ)

副本及戦時名簿ヲ携テシム

十一浪ノ弟ニ旅中ニ編入シタル下士共ニ、缺員ハ
補充セス

十二条諸項ニ示ス外詳細ノ事ハ別紙書類及諸
表ニ按ルニシ

臺灣傳信考 訓令

一 臺灣島宇備為三都、臺灣島備設成第一第二及同
 第一師團、係以人實定、第二師團及設成第一師團、別以
 甲乙丙等番諸番要員、併設成第一師團且地到島、上第一師團
 可先平、以備設成第一師團且澎湖島等處要隊、
 設成第一師團、以備設成第一師團、係以人實定、
 其右以上人名、推言、考、備設成第一師團、係以人實定、
 於、考、備設成第一師團、係以人實定、

但推言及以下、考、備設成第一師團、係以人實定、
 台、考、備設成第一師團、係以人實定、

第二師團、內、

臺灣總督府第三旅隊第一五隊長

團 日 牙三隊長

團 日 中隊長

團 日 大隊副長

團 日 第三旅隊附

團 日

團 日 騎兵中隊附

團 日 野戰砲兵中隊附

團 日 五島中隊

團 日 混成步兵中隊

臺灣總督府第四旅隊第一六隊長

少佐 志名

日

大尉 八名

中尉 三名

中(少尉) 三名

特務曹長 三名

少尉 三名

日

日

少佐 志名

四	中隊長	大尉四名
三	右隊長	中尉一名
二	左隊長	中尉一名
一	特別事務	四名

二基隆島海軍軍醫官隊は往來往復に在り而して備置
 軍醫官隊は其後海軍少佐以下に於ては
 三神守の用之れ特任の職務に任ず

但し新編成に於て不足の職欠は破産者や他隊の者
 破産し又預備役の者は此際軍隊に選入せしむ其の
 格差ありし

三基隆島海軍軍醫官隊は往來往復に在り而して備置

修護大隊長として海軍をよへし

四 附入るるに... 二年と三年と... 補充をせしめし

(補給に在りて) 而して轉入をせし生るる軍隊... 補充をせしめし

五 鐵板、被單、依り一書等書一尋卒、板、三玉軍書、三尋卒より奪りし

十一 一尋卒書一尋卒板、指し下ぬ、鐵板、被單と云ふはぬケナシ

六 轉入せしめし上長官一尋卒... 附入るる軍隊に... 醫士... 甚し

七 備隊海軍、家使... 掘りし

七 轉入者、被後... 別紙 A 号... 諸君... 卒

八 被後... 被後... 掘りし

八 附入るる... 被後... 掘りし

掘りし... 甚し... 掘りし

手ハ後脚キテ新ク色迄モシムヘシ

(1) 宙空下出立奔ニ各人村田宙空銃、同直色七十条及喇叭長
喇叭長ニ外ニ喇叭ヲ摺リセシム

(2) 騎兵下士及喇叭長喇叭長ニ各人騎兵ノ一隊銃、同直色
三十条喇叭長喇叭長ニ外ニ喇叭ヲ摺リセシム騎兵奔
ニ騎兵ノ村田宙空銃、同直色三十条摺リセシム

(3) 野戦砲兵下出立奔ニ各人砲兵ノ喇叭長喇叭長ニ
外ニ喇叭ヲ摺リセシム

(4) 下出立奔ニ各人村田宙空銃、同直色三十条喇叭長
喇叭長ニ外ニ喇叭ヲ摺リセシム

(5) 右左騎兵下出立奔ニ其佩刀ヲ摺リセシム

九 海軍第七艦隊を、掃入（イ）中島島に在る海軍第七艦隊の海軍兵

隊員に守備隊隊員を二隊定めて、四地に掃入せしむる如き

作業者を定めて、その掃入を完了せしむる

十 即ち海軍第七艦隊に在る野戦地隊、海軍兵隊及び同隊に在る兵

隊員を、海軍第七艦隊に在る海軍兵隊に編入せしむる

長（引渡す）とす

十一 海軍第七艦隊の掃入完了後、その二個と艦隊に在る海軍兵

隊員を、海軍第七艦隊に在る海軍兵隊に編入せしむる

十二 海軍第七艦隊の掃入完了後、その二個と艦隊に在る海軍兵

隊員を、海軍第七艦隊に在る海軍兵隊に編入せしむる

臨海集三十一三三號



道し弟ハ六六ノ一ノ今台所
 経替。感。海。清。上。館。下。合。長。ハ
 初。合。案。出。所。招。招。一。越。下。也
 右。ハ。三。有。身。一。ハ。案。一。年。一。初。合
 百。五。十。一。年。一。月。一。日。一。向
 可。法。年。一。月。一。日。一。向
 参。謀。佐。史。兼。右。衛。門。督
 七。五。山。信。壽。山。麓。收

至急

高

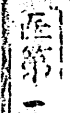
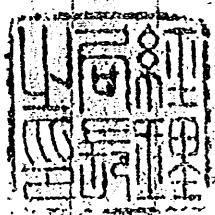
其正傳を何國漢編録の簡し國を弟二の長
ノ左抄にも引寄せた也及上ノ抄

の活女九年の三十一

平抄局長



經理局長

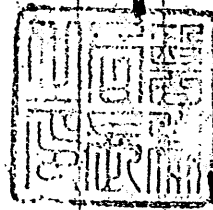


川上

第一

第二六號

醫務局長



人事課長



圖書部第二課長ノ事務

一、台湾古史関係の史料類、紀元以前

編成セラル

二、古史関係の台湾各地漢代遺跡、古墳、

光緒の年表(B) 籍、人、分、才、二十

と、在東京者、傳と傳浪、及一旅、也、司
全部ノ交付スルコト

ニ、才二項、あり、其ノ、鉄道、輸送、ノ、關、シ、テ、ハ、終、又
司、令、支、大、ノ、專、任、ノ、協、定、ス、ル、コト

陸軍省
陸軍部
第九二號

三月十四日

陸軍省

B

6080

計	里漏	小南碓	大姑隋	泆水	新竹	宜蘭	基隆	要員	
								看護長	調劑手
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七〇	五	五	五	五	一七	一七	一六	一	一
六	一	一	一	一	二	二	二	一	一
三	二	二	二	二	二	一	一	一	一

基隆各地衛戍病院下士以下要員配當表

(留守長二帥)

筆撮版用

本表人員中看護長及調劑手ハ雇員、小使及厨夫ハ傭役者ヲ以テ之ニ充
ルコトヲ得

大



陸軍大臣より各師団長に送付する
純正製ハシケの支給及び
ト

昭和九年三月十九日

軍務局長

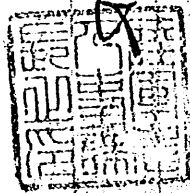
経理局長

醫務局長



三月十日
第...二五號

奉 深 長



と申すは、先づ、

一、台湾の領土を、

規定の條に、

及、旅支、

及、旅支、

及、旅支、

其、大、

二、其、

海ノ轉あせしらるる各号科下土並度所
醫者、令深ハ女以妻長、あハシラ令り
女ノ名ヲ披告スルコト

但信生部下土並度部下土ノ限
陸本者ヨリ令深ス

三轉あせしらるる女有ハ、決着轉度ノ関ニテ
ハ信生部ノ女ハ、界ノ雄部轉度ノ
関ニテ、信生部ノ信部長、田島、協
澤スルコト

三月十日

弟ノ少妻長ハ、信生部

并二項とほめを長へて送付す

三物とせらばりあふ、新橋輪屋、関してハ、

只伊藤、用、行、部長、永、田、島、(か、め、を、長、へ、て、送、付、す)

ハ、新、橋、下、下、三、十、字、ヲ、決、断、輪、屋、関、して、ハ、九、割、

区、別、々、々、山、本、信、の、難、(註、) 他、(註、) 偏、派、ス、

軍省 送乙第 八七六 號

三月十日

臺灣島兵備ニ關スル要領書

臺灣守備隊編成ノ要領

基隆及澎湖島要塞砲兵隊編成ノ要領

臺灣守備諸部隊編制表

臺灣島兵備ニ關スル要領

第一 臺灣島兵備ノ主旨

兵備ヲ臺灣島ニ置クノ目的ニアリ曰ク外寇ニ對スル者曰ク内治ニ要スル者

夫レ臺灣ハ帝國南門ノ鎖鑰ナリ外寇ニ對スルノ守備固ヨリ懈ルヘキニ非ス然レトモ物ニ本末アリ事ニ先後緩急アリ臺灣要衝ナリト雖モ之ヲ本州ニ較スルトキハ則チ末ナリ今ヤ内地ノ國防ニ急ニシテ大ニ軍備擴張ヲ圖ルノ秋ニ際ス本ノ未タ固カラサル焉ソ其末ヲ顧ルニ遑アラシヤ故ニ本案ハ姑ク第二ノ目的ヲ取り單ニ島民ヲ鎮撫シ内治ヲ整理スルニ要スルノ兵力ヲ置クコト、爲セリ其第一ノ目的ノ如キハ他日内地ノ兵備完成ヲ告クルヲ待チ徐ロニ之ヲ施設セント欲スルナリ

第二 守備管區

臺灣全島並ニ附屬諸島嶼ヲ左ノ守備管區ニ分ツ

北部守備管區

中部守備管區

南部守備管區

北部守備管區ハ左ノ地方ヲ包轄ス

西中港溪ヨリ起リテ畢祿山頂ニ達シ南シテ傀儡山、合歡山、能高山、中界嶺ヲ走セ大崙頂ヨリ東北シテ花蓮港ニ至ル線以北ノ地方及同地域沿岸ノ各島嶼

中部守備管區ハ左ノ地方ヲ包轄ス

北部守備管區南方ノ地域ニシテ同管區ノ最南端大崙頂ヨリ起リ南シテ丹大山、群大山、平林山附近ニ達シ是ヨリ西シテ石門山ニ至リ更ニ北シテ葉林山、鹿堵山、大湖山ノ間ヲ走セ望古坑ノ邊ヨリ西シテ他里務街ノ南ヲ過キリ下湖街ニ至リ海ニ達スル線以内ノ地

南部守備管區ハ左ノ地方ヲ包轄ス

北部守備管區ノ最南端大崙頂以西ハ中部守備管區ノ以南、大崙頂以東ハ北部守備管區以南ノ地方、澎湖島並ニ沿岸ノ各島嶼

右ニ掲クル守備管區其他附圖ニ示シタル團隊ノ配置ハ實地踏査ヲ經スシテ假ニ定メタルモノニシテ其大體ノ標準ヲ示スニ過キス故ニ之ヲ實行スルニ臨ミ特ニ總督ニ訓令シ實地調査ノ上更ニ意見ヲ提出セシメ然ル後之ヲ確定セントス

第三 守備隊駐劄ノ期限、交代ノ時期及其編成並要員充足ノ方法

臺灣守備隊ハ其衛戍地ニ於テ新兵教育ヲ爲スノ甚々困難ナルノミナラス未タ軍隊生活ニ慣レサル新兵ヲ蠻烟瘴雨ノ間ニ投スルハ衛生上極メテ不利ナリトス故ニ臺灣ニ派遣スヘキ兵卒ハ内地師團ニ於テ十分ナル教育ヲ施シ若シ他ニ支障ナケレハ秋季機動演習ヲ終ヘテ後之レヲ派遣スルヲ善トス然ルキハ守

備兵ハ教育並ニ軍隊生活ノ大體ヲ通過シタルモノヲ以テ編成スルヲ得ヘシ換言スレハ守備隊ハ第二年兵及第三年兵ヲ以テ編成ス

以上ノ理由ニ依リ守備隊駐劄ノ期限ハ二ケ年トシ其交代ハ年々十一月ニ於テス即チ同月上旬守備隊要員ノ半數ヲ第一年兵ヨリ採リテ派遣シ同月下旬滿期兵ヲ内地ニ送還スルモノトス且ツ右ノ如ク年々十一月ニ交代セシムルモノトセハ守備兵ハ俄然臺灣ノ劇暑ニ觸ル、トナクシテ衛生上亦大ニ利スル所アルヘシ

以上述フル所ノ守備隊要員ハ内地各師團ヨリ採リ之ヲ集成シテ以テ編成ス

臺灣守備混成三旅團編成ノ爲メ當分ノ内既設師團各中隊ヨリ派遣スヘキ人員ハ約左ノ如シ(左ニ列記スル人員ハ看護手及諸職工卒ヲ含有スルモノトス以下同シ)

步兵中隊	一四	
騎兵中隊	七	
野戰砲兵中隊	五	
工兵中隊	一一	
新設師團ノ平時人員完備スルノ後ハ内地師團ノ各中隊ヨリ派遣スヘキ人員ハ約左ノ如シ但シ新設師團ノ平時人員完備セサルモ漸次中隊ノ完備スルニ從ヒ此中隊ヨリ臺灣守備隊ノ要員ヲ派遣スルハ妨ケナシ		
步兵中隊	八	
騎兵中隊	三	
野戰砲兵中隊	二	
工兵中隊	六	
基隆及澎湖島要塞砲兵大隊ハ内地新設要塞砲兵隊平時人員ノ完備ニ至ル迄ハ東京灣及下ノ關要塞砲兵聯隊ヨリ派遣シテ其		

要員ノ半數ヲ充タシ殘餘ノ半數ハ步兵助卒ヲ使用ス
 基隆及澎湖島要塞砲兵隊ノ砲兵卒ハ其三分二ヲ東京灣要塞砲
 兵聯隊ヨリ其三分一ヲ下ノ關要塞砲兵聯隊ヨリ採リ步兵助卒
 ハ各師團ヨリ平等ニ派遣セシム
 要塞砲兵隊編成ノ爲メ派遣スヘキ人員ハ約左ノ如シ
 東京灣要塞砲兵聯隊ヨリ 八九
 下ノ關要塞砲兵聯隊ヨリ 四五
 各師團ヨリ 一九 (步兵助卒)
 新設要塞砲兵隊ノ平時人員完備スルノ後ハ内地各要塞砲兵隊
 ヨリ派遣スヘキ人員約左ノ如シ
 東京灣要塞砲兵聯隊 七五
 由良要塞砲兵聯隊 六〇
 下ノ關要塞砲兵聯隊 六〇
 藝豫要塞砲兵聯隊 四五

佐世保要塞砲兵聯隊

三〇

吳要塞砲兵聯隊

三〇

舞鶴要塞砲兵大隊

一五

函館要塞砲兵大隊

一〇

前諸項ニ述フル所ノ内地各隊ニ於テハ派遣スヘキ兵卒要員ノ三分一宛ヲ毎年増加徴集シテ其缺ヲ補充ス

以上守備隊ノ編成並ニ要員充足ニ關シテ述ル所ノモノハ後來採ラント欲スル所ノ正規ノ方法ナリトス

然リト雖モ目下臺灣島ニ駐劄セル第二師團ハ成ルヘク速ニ交代セシムルヲ要スルヲ以テ廿九年度ニ於ケル守備隊ノ編成並

ニ交代ハ特別ノ方法ニ由ラサルヘカラス

即チ廿九年三四月ノ頃内地各師團ノ二年兵及三年兵ヲ採リテ守備隊ヲ編成シ之ヲシテ第二師團ト交代セシメントス

右ノ如クナスルハ守備隊ノ第三年兵ハ廿九年十一月下旬内地

へ送還シ同月上旬守備隊要員ノ半数ヲ第一年兵ヨリ採リテ派遣ス

前述ノ如ク廿九年度ニ特種ノ守備隊ヲ編成スルモノトセハ内地師團各中隊ヨリ派遣スヘキ第二年兵及第三年兵ノ合計人員ハ左ノ如シ(左ニ列記スル人員ハ諸職工卒ヲ含有スルモ看護手ヲ含マス要塞砲兵隊ニ於ケルモ亦同シ)

歩兵中隊

二六乃至二七

騎兵中隊

一三

砲兵中隊

九乃至一〇

工兵中隊

一九乃至二〇

前項ノ外基隆及澎湖島要塞砲兵隊編成ノ爲メ内地ヨリ派遣スヘキ第二年兵及第三年兵ノ合計人員ハ左ノ如シ

東京灣要塞砲兵聯隊ヨリ

八五

下ノ關要塞砲兵聯隊ヨリ

四三

各師團(近衛師團ヲ含ム)ヨリ 一八乃至一九、(歩兵助卒)

内地ノ各隊ヨリ派遣シタル第二年兵及第三年兵ノ缺員ハ豫備
徴員ヨリ徴集シタル歸休兵ヲ以テ成シ得ル限り之ヲ補足ス

但二十九年十一月派遣スヘキ第一年兵ノ補缺モ亦同シ又騎
兵隊ニ在テハ豫備徴員ヨリ徴集シタル歸休兵極メテ僅少ナ
ルヲ以テ初次ノ派遣ニ於テ要員ノ半數ニ應スル第二年兵ヲ
取リテ定員ノ半部ヲ充タシ本年十一月ニ至リ初年兵ヲ派シ
自餘ノ半部ヲ充タスノ手段ニ依ラントス

守備隊ノ馬ハ下士兵卒交代スルモ之カ爲メニ交換セス

但守備隊ノ補缺馬ハ交代兵ヲ出スヘキ師團ヨリ交代兵ト共
ニ輸送セシメ該師團隊馬ノ補缺ハ陸軍大臣へ申請セシム

第四 守備兵團隊ノ編制

編制ノ要領

守備隊ノ目的臺灣内地ノ鎮撫ニアルヲ以テ如何ナル場合ニ於

テモ守備隊ハ大ナル團隊ヲ編合シ諸縦列ヲ從ヘ整々タル運動
 ナ爲スヲ要セス必要ニ際シテハ小部隊ヲシテ單ニ所要ノ大小
 行李ヲ率ヒ匪徒ノ鎮壓ニ從事セシムルヲ以テ足レリトス
 故ニ臺灣守備諸隊ハ所要ノ戰鬥員ト行李監視、屯營留守員及若
 干ノ豫備員トヲ備ルノミトス

編 制

臺灣守備隊ハ混成三旅團及要塞砲兵二大隊ヨリ成ル
 各混成旅團ハ司令部及左ノ諸隊ヨリ成ル

歩兵二聯隊

騎兵一中隊

野戰砲兵一中隊

工兵一中隊

要塞砲兵ハ基隆及澎湖島要塞守備ノ目的ヲ以テ右ノ各地ニ各
 一大隊ヲ置ク

司令部及諸隊ノ編制ハ別表ノ如シ

前陳ノ如ク臺灣ノ兵備ヲ定メタルハ内地各師團ノ兵備ヲ錯亂セスシテ派遣ノ目的ヲ達セントスルニ依レルモノニシテ島民鎮壓ノ上ヨリ之ヲ觀ルキハ其數ハ殆ント少極ト謂ハサルヲ得ス守備隊ノ兵力ヲ更ニ焉ヨリ大ナラシメントスレハ未教育ノ新兵ヲ直ニ派遣スルカ或ハ内地師團各隊ノ勤務ニ困難ヲ生スルヲ顧ミサルニアラサレハ能ハス故ニ當分鎮壓上必要ノ存スル間ハ内地某師團ヨリ更ニ一部隊ヲ増遣シ置クノ方法ニ依ラサルヲ得ス

臺灣守備隊稱號

一臺灣守備混成旅團ハ旅團ノ上ニ第一ヨリ第三ニ至ル番號ヲ冠シ同歩兵聯隊ハ第一ヨリ第六同騎兵、砲兵及工兵中隊ハ第一ヨリ第三ニ至ル番號ヲ附ス

臺灣陸軍各官廳

一 臺灣島駐屯各部各隊ノ經理衛生其他兵器彈藥材料等支給ヲ
容易ナラシムルカ爲メ各種ノ官廨ヲ置ク其編制ハ別表ノ如
シ

臺灣守備隊編成ノ要領
 一 臺灣守備隊ノ編成地、乘船地及其編成スヘキ原隊ハ左ノ如シ

團	隊	編成地	乘船地	編成スヘキ原隊
混成第一旅團	東京	宇品	第一師團、第二師團(在臺灣)近衛師團(三分一)	
混成第二旅團	大阪	宇品	第三師團、第四師團(内約半數在臺灣)近衛師團(三分一)	
混成第三旅團	小倉	門司	第五師團、第六師團(内約半數在威海衛)近衛師團(三分一)	
要塞砲兵隊	下ノ關	下ノ關	東京灣及下ノ關要塞砲兵聯隊	

二 在威海衛混成第十一旅團ハ砲兵大隊ヲ除キ他ハ悉ク平時編制トナシ且ツ騎兵中隊及工兵中隊ハ尙大ニ之レヲ減少スルノ考案ナルヲ以テ此旅團ヨリ採リタル歩兵騎兵及工兵ノ缺員ハ補足セサルモノトス

三 近衛師團ヨリ派遣スヘキ兵卒 ^各混成旅團ヲ編成スヘキ他

ノモト同一ノ師管ニ屬スルモノナルヲ要ス假令ヘハ混成
第一旅團ニ派遣スヘキ近衛兵ハ第一及第二師管ニ屬スルモ
ノナルカ如シ

四臺灣守備隊ニ屬スル尉官ノ乘馬及隊馬ハ近衛師團ノ引揚ニ
際シ臺灣ニ殘留シタル乘馬及駄馬ヲ使用ス若シ乘馬ニ不足
ヲ生スルキハ第二師團若クハ總督府ニ屬スル剩餘ノモノヲ
以テ補足スルモノトス

五中(少)尉及下士ハ臺灣派遣中定員外トシテ其籍ヲ原隊ニ有ス
ルモノトス

六臺灣ニ派遣スヘキ下士兵卒ハ兵籍(下士)ハ考科表共ノ副本及
戰時名簿ヲ携行セシムルモノトス

七内地ニ於テ臺灣守備隊ヲ編成スルニ當リテハ先ツ各混成旅
團司令部ヲ設置シ次テ聯隊本部大隊本部等逐次司令部及本
部ヲ編成シ最後ニ中隊ヲ編成スルモノトス

八要塞砲兵隊ハ既ニ基隆及澎湖島ニ其基本隊ノ設ケアルヲ以テ内地ニ於テ之レヲ編成スルヲ要セス故ニ要塞砲兵ハ編成地ニ到着シテヨリ臺灣ニ至ル迄ノ間ハ新ニ派遣スヘキ將校中高級古參ノモノヲシテ之レヲ指揮監督セシムルモノトス九兵器材料ハ臺灣守備隊ノタメ凡テ別途ニ支給シ小銃ハ村田單發銃野戰砲兵ハ山砲トス十彈藥ハ左ノ比例ヲ以テ支署、武庫、及隊ニ適宜配當シテ保管セシムルモノトス

步兵彈藥	一銃ニ付	六〇〇發
騎兵彈藥	同	三〇〇發
野戰砲兵彈藥	一中隊ニ付	二、二三〇發
工兵彈藥	一銃ニ付	三〇〇發
要塞砲兵小銃彈藥	同	三〇〇發
前項彈藥ノ數ハ各隊約五ケ年ノ演習彈藥ニ相當スルモノト		

ス

十一 守備隊ノ被服ニ關シテハ陸軍省ニ於テ調査セラレシコト
ヲ望ム

基隆及澎湖島要塞砲兵隊編制ノ要領

一 明治二十八年八月廿八日制定セラレタル臨時基隆及澎湖島
 堡壘團守備要塞砲兵隊ノ編制ハ清國ヨリ收容シタル該地ノ
 堡壘砲臺ヲ管理シ且ツ之ヲ保護スルカ爲メニ必要ナル人員
 ナリ目途トシテ定メラレタルモノナリ本編制案モ亦此趣旨ニ
 準シ該臨時編制ノ人員ヲ基礎トシテ起案シタリ然レモ臨時
 編制中ニハ輪卒馬卒ノ如キ戰時ノ素質ヲ包含シ諸職工(下)長
 ノ如キ平時必要ナル素質ヲ缺如セルヲ以テ其要否ニ從ヒ取
 捨斟酌シ全ク平時要塞砲兵獨立大隊ニ準據シ臨時編制ニ多
 少ノ改正ヲ加ヘタリ

二 本案ノ平時要塞砲兵獨立大隊ニ異ナル所左ノ如シ

其一 大隊附少佐若クハ大尉ヲ缺ク

其二 中隊附中(少)尉五名ヲ三名ト爲ス

其三 中隊附軍曹九名ヲ八名ト爲ス

其四 中隊附上等兵十六名ヲ十二名ト爲シ一等卒四十八名ヲ三十名ト爲シ二等卒六十六名ヲ六十名ト爲ス
 其五 大隊附看護長二名ヲ基隆ニ在テハ三名澎湖島ニ在テハ四名ト爲ス
 其六 大隊附軍吏及一(二)(三)等書記各二名ヲ各一名ト爲ス
 其七 大隊附縫工(下)長、靴工(下)長、縫工、靴工ヲ缺ク
 其八 中隊二等卒ノ内ニ助卒ヲ加ヘス兵卒人員ノ半數ハ當分ノ内歩兵科ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ許ス
 其九 看護長看護手ハ當分ノ内看病人ヲ以テ充ツルコトヲ許ス
 三前項ニ掲クルカ如ク本要塞砲兵隊編制ノ内地ノ者ニ異ナル所以ハ戰時所要ノ人員ヲ顧慮セサルト被服ノ經理事務ヲ擔當セサルト新兵ヲ教育スルノ要ナキト其任務概シテ簡單ナルトニ由レルモノナリ

四 基隆ノ要塞砲兵隊ハ二ヶ所澎湖島ノ要塞砲兵隊ハ三ヶ所ニ
分遣ヲ要スルナラン看護長ヲ増員シタルハ之カ爲メナリ又
炊事掛軍曹ノ内一名ハ最大ナル分遣隊ニ屬シテ派遣スルノ
考案ナリ

五 兵卒人員ノ半數ヲ當分ノ内歩兵科ノ者ヲ以テ補ヒ看護長看
護手ヲ當分ノ内看病人ヲ以テ補フコトヲ許シタルハ補充上
ノ困難ヲ顧慮シタルニ因ル但シ計畫シタル内地各要塞砲兵
隊平時人員完備ノ後ハ同時ニ看護長看護手ノ補充ニモ差支
ナキニ至ルヘキヲ以テ此特例ヲ廢スルノ見込ナリ又々助卒
ヲ廢シタルハ其服役年限僅カニ一ヶ年ナルヲ以テ毎年交代
セシムルノ煩ヲ避ケンカ爲メナリ

六 當分ノ内基隆及澎湖島要塞砲兵大隊編成ノ爲メ將校二十六
名下士(火工下士ヲ含有ス)六十九名ヲ要ス即チ毎三年ニ交代
セシムルモノトスルハ東京灣要塞砲兵聯隊ヨリ毎年將校

六名下士十六名下ノ關要塞砲兵聯隊ヨリ將校三名下士八名ヲ交代セシムレハ可ナリ但内地各要塞平時人員完備ノ後ハ大ニ此負擔ヲ輕減スルヲ得ヘシ

七目下基隆及澎湖島ニ駐屯シ在ル臨時要塞砲兵隊ハ本編制ノ基本ト爲シ本年度交代ノ時期ニ於テ基隆ノ臨時要塞砲兵隊ニ在テハ兵卒百〇二名(此内半數ハ歩兵科ノ者)澎湖島臨時要塞砲兵隊ニ在テハ兵卒百五十三名(此内半數ハ歩兵科ノ者)ヲ該地ニ止メテ其一部ハ本年十一月迄他ノ一部ハ明年ノ交代期迄服役セシメ殘餘ハ歸國セシメ同時ニ下ノ關及東京灣要塞砲兵聯隊並内地各師團歩兵隊ヨリ同數ノ初年兵ヲ派遣ス但臨時要塞砲兵隊ヨリ本編制ニ轉セシムヘキ兵卒ハ廿六年兵及廿七年兵ノモノナルヲ要ス

八臨時編制ノ將校人員ニ比シ基隆要塞砲兵大隊ハ三名澎湖島要塞砲兵大隊ハ五名ヲ増加シ下士ハ基隆ニ五名澎湖島ニ十

一名ヲ増加ス本年交代ノ時期ニ於テハ此増加人員ヲ補充ス
ルノ外ハ單ニ缺員ヲ補フニ止メ明年交代ノ時期ヨリ第六項
ニ記スルカ如ク年々定期ニ交代セシムルヲ可トス
尤非戦列員ノ補充及交代法モ亦前記各項ニ準スルヲ要ス

0338

第六十八號

多摩川備混成旅團司令部編制表

計	法 官 部	獸 醫 部	軍 醫 部	監 督 部	僚		幕 參 謀 部	旅 團 長	區 分 階 級								
					副 官 部	副 官 部			少 將	中 佐 並 相 當 官	少 佐 並 相 當 官	大 尉 並 相 當 官	中 尉 少 尉 並 相 當 官	下 士 並 判 任 文 官	人 員 計	乘 馬	
將校同相當官 理事 一七	部長 理事 一		部長 一	部長 一		副官 一	參謀長 一	一									
	一部員 理事 一	部長 一	一部員 軍醫 一	一部員 五	軍吏 一	副官 一	參謀 一										
將校馬 一一	一 錄事 二	書記 一	一 衛生部 二	一〇		軍吏部 一	書記 二										
	四	二	四	一六		七	四	一									
		一	一	一		二	三	三									

臺灣守備歩兵一聯隊編制表

階級	分	聯隊本部		大隊本部		一中隊		聯隊(三大隊)計	
		人員	乘馬	人員	乘馬	人員	員	人員	員
大(中)	佐	聯隊長	一	二					一
大	尉	副官	一	一	大隊長	一	二		三
中	尉			副官	一	一		中隊長	一
少	尉	旗手	一						二
特務	曹長								一
曹	長								一
一等	軍曹								一
二等	軍曹		三			五			一
上	等兵								一
一等	等卒								一
二等	等卒								一
計			六	三		七	三		一三三
二等	軍醫正		一	一					一
一等	軍醫								一
二(三)等	軍醫								一
看護	長								一
看護	手								一
一等	軍吏								一
二(三)等	軍吏								一
一(二)(三)等	書記								一
統工	長								一
統工	下長								一
計			一	一		七			三
合	計		七	四		一四	三		二三三
備									一、六四五
考									一三三

(一)聯隊本部軍曹ノ内一ハ喇叭長、二ハ書記ノ分課トス(二)大隊本部軍曹ノ内一ハ喇叭長、二ハ書記、二ハ炊事掛ノ分課トス(三)中隊軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課、兵卒ノ内四ハ喇叭手一(二)等卒ノ内總工、統工卒少シモ各二名ヲ含有ス(四)一等軍吏ノ附屬スル大隊ニハ一(二)(三)等書記一名ヲ增加ス(五)聯隊本部ノ二等軍醫正ハ聯隊中某一大隊ノ衛生事務ヲ兼ヌ(六)獨立シテ分遣スル中隊ニハ特ニ軍醫一名ヲ附屬スルヲ得(七)諸工(下)長ハ當分ノ内雇員ヲ以テ充ツルヲ得

臺灣守備騎兵中隊編制表

階級	區分	人員	乘馬
大尉	中隊長	1	2
中尉		1	2
少尉		1	2
特曹長	務	1	1
曹長		1	1
一等軍曹		5	5
二等軍曹		5	5
上等兵		14	14
一等卒		27	15
二等卒		50	15
計		106	70
一等軍醫		1	
看護長		1	
看護手		1	
二等獸醫		1	
二等軍吏		1	
一等書記		1	
鞍工(下)長		1	
銃工(下)長		1	
蹄鐵工(下)長		1	
計		9	
合計		115	70

備考

(一)軍曹ノ内ニハ給養掛、炊事掛ノ分課トス(二)上等兵ノ内一ハ喇叭長(二)等卒ノ内二ハ喇叭手、(三)等卒ノ内縫工、靴工卒少クモ各二名蹄鐵工卒少クモ三名ヲ含有ス(三)獸醫並ニ諸工(下)長ハ當分ノ内雇員ヲ以テ充ツルヲ得